

第17回
ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」
運営委員会議事録

日 時：2017年8月30日（水） 午前10:00～12:20

場 所：山梨県立図書館 交流ルーム 101

出席者：岡本仁（理化学研究所BSI）、吉原良浩（理化学研究所BSI）、川上浩一（国立遺伝学研究所）、酒井則良（国立遺伝学研究所）、東島眞一（基礎生物学研究所）、石田誠一（国立医薬品食品衛生研究所）、伊藤素行（千葉大学）、小島肇（国立医薬品食品衛生研究所）、瀬原淳子（京都大学）、鎌迫典久（愛媛大学）、田中利男（三重大学）、津田佐知子（埼玉大学）、成瀬清（基礎生物学研究所）、西谷直之（岩手医科大学）、日比正彦（名古屋大学）、平田普三（青山学院大学）、政井一郎（沖縄科学技術大学院大学）

オブザーバー参加者：川原敦雄（山梨大学）、石岡亜季子（理化学研究所 BSI）

議題

1. 運営委員、実施機関担当者、オブザーバーの自己紹介
2. 運営委員長を選出
3. 実施機関による実施状況報告（岡本、川上、東島）
4. 第4期プロジェクトの概要
5. 海外のストックセンターとの連携
6. 魚の Health Monitoring
7. 実施機関の将来問題

報告および審議

1. 運営委員、実施機関担当者、オブザーバーの自己紹介

はじめに、委員長候補の平田より本委員会の進め方について説明があった。第3期までの運営委員会は主に基礎研究分野の研究者によって構成されていたが、今年度より第4期となり、より広い分野からの意見を取り入れる事を目的として運営委員の変更があったため、出席者が自己紹介をした。

2. 運営委員長を選出

運営委員長として平田が選出された。委員長の任期は5年とした。委員は原則的に1年更新だが、5年継続することを視野に入れ、必要に応じて委員会での話し合いのもと変更可能とした。

3. 実施機関による実施状況報告（岡本、川上、東島）

各実施機関の代表者より下記の点について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

- (1) 運営規模の概略（成魚水槽数、稚魚水槽数、ライブで維持する系統の数、補助員の勤務形態と人数、実費徴収の方法、発送の方法）
- (2) 2016年度の会計報告
- (3) 2017年度7月までの会計報告
- (4) 2016年度および2017年度現時点までの活動実績（収集した系統の名称と数および累計、凍結保存した系統の名称と数および累計と保存場所、分与した系統の名称・送り先と数および累計）
- (5) データベースの更新状況
- (6) その他

各運営状況のポイントおよび審議

・理化学研究所 BSI（岡本）

(1)～(6)に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

2016年度に追加予算により凍結精子保存用の超低温フリーザーを増設した。

試験的にゼブラフィッシュの微生物モニタリングを行った。試験方法等について審議した。

全部の飼育ユニットを継続的に検査する事は経済的に難しいため、今後は重点的に検査が必要な箇所を選んで検査を行う方針とした。

・国立遺伝学研究所（川上）

(1)～(6)に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

2016年度に追加予算により凍結精子保存用の超低温フリーザーを増設した。

災害時に備え、凍結精子のバックアップを基生研（NBRP メダカ）に保管するために、バックアップサンプルの準備を行った。今年度中にサンプルの移送を開始する予定である。

ゼブラフィッシュ近交系の維持・作製も順調に進んでいる。

・基礎生物学研究所（東島）

(1)～(6)に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

系統保存やデータベースについて、理化学研究所と連携して事業を進めている。

・その他

今後長く事業を継続していくことを考え、将来的には、もっと利益がでるような価格設定を

していく事が重要ではないかとの意見があった。

4. 第4期プロジェクトの概要

第3期に続き3機関による実施機関の体制を継続する。期間は5年間である。

第4期の間に、第5期の計画を検討することとした。

5. 海外のストックセンターとの連携

NBRPのゼブラフィッシュ系統について、海外のストックセンターからオファーがくる事がある。ゼブラフィッシュ系統を預けてもMTA契約は直接ユーザーとNBRPが結ぶ等の方策をとり、海外のストックセンターと連携することが提案された。

6. 魚の Health Monitoring

「3. 実施機関による実施状況報告」の中で既に審議をした。

7. 実施機関の将来問題

実施機関代表者の年齢を考慮すると第5期は実施機関の体制変更が必要となる事が予想される。各実施機関代表者が状況を報告し、問題を共有した。この問題を解決していくためには、コミュニティーの意見を拾う事も大切だと考えられた。また、機関の事情によるところが大きい為、各機関の状況を来年度も報告し、審議することとした。継続的に審議し、第4期の中で方策を確定することとした。

また、今後、国内でユーザーを増やす努力が必要だとの意見があった。

→8月31日小型魚類研究会のコミュニティーミーティングで下記の報告等を行った。

- ・ 第4期の事業開始を報告し、運営委員長として平田が承認された。運営委員の交替、第4期の方針および課題について報告した。
- ・ 日本のゼブラフィッシュ研究者の規模を調べる方法について審議した。
- ・ 今後もNBRPを利用していただくよう呼びかけた。